

家畜舎向けの消臭剤

ケミカル 病気発生も抑える

バイオベンチャーのカルファケミカル(本社横浜市、社長小池恵治氏、資本金三千万円)は豚舎など家畜舎の悪臭を消し、家畜の病気も減らす効果を持つ消臭液を開発した。食品添加物として利用されているミネラルイオンを含む無味無臭の液体で、家畜舎の洗浄も散布に使う。有害ガスの発生を抑えるうえ、急性肺炎、下痢の発生率が大幅

に下がり、成育と肉質が向上することを確認している。悪臭公害の解消にも役立つことから国内外の農家養豚業者などに販売する。

このほかにも硫化水素、メルカプタン、吉草酸、酪酸などの悪臭にも効果がある。これらのガスが家畜舎内にあると下痢や成育不全をおこすほか、急性肺炎の原因にもなるという。消臭液の原液を五百一

千倍に希釈し洗浄液として使えば、家畜が成育しやすい環境を作り、歩留まりと肉質が高まる。台湾の豚舎において千二百頭の豚で効果を実験したところ、「VLI100D」を使用した豚は下痢の発生率が使用しないグループに比べ三〇％低かった。急性肺炎の発生率では約半分という。

開発したのは「カルファVLI100D」(商品名)で、鉄イオン、ナトリウムイオン、カルシウムイオンなどの金属イオンが高濃度で含まれている。動物の排せつ物から発生するイン

最近では大都市周辺で家畜舎の悪臭をめぐって住民と対立するケースも多く、消臭液を利用することで環境問題にも役立つと同社ではみている。

千倍に希釈し洗浄液として使えば、家畜が成育しやすい環境を作り、歩留まりと肉質が高まる。台湾の豚舎において千二百頭の豚で効果を実験したところ、「VLI100D」を使用した豚は下痢の発生率が使用しないグループに比べ三〇％低かった。急性肺炎の発生率では約半分という。

最近では大都市周辺で家畜舎の悪臭をめぐって住民と対立するケースも多く、消臭液を利用することで環境問題にも役立つと同社ではみている。